



富田賢（とみたさとし）

株式会社ティーシーコンサルティング代表取締役社長。事業提携による新規事業の立ち上げや売上アップを得意としている。この約5年で120社以上の豊富な実績。ベンチャーキャピタルにて上場経験も有する。慶應義塾大学卒業。京都大学大学院経済学研究科修了。

Webは、「とみたさとし」と検索！本稿のご感想、気軽にお送りください。電子メールは、info@tcconsulting.co.jp まで！

富田賢の 横比較の目線

vol.5

水泳ファンを増やし続けているスイミングスクール業界との横比較

今年の5月からスタートしたこのコーナーでは、中古車業界、ゴルフ雑誌業界、予備校業界を取り上げてまいりました。偏差値を徹底活用している予備校業界との横比較については、2回にわたって検討しました。

ゴルフ業界にとつてのインブ리케이션（教訓）が得られる他業種としてどこがよいかを、私のこれまでのコンサルティング経験に基づいて考えてみると、なかなか難しいのですが、今回は、スイミングスクール業界との横比較にチャレンジしてみよう。

**水泳人口を
あらゆるレベルで
増やし続けている
スイミング業界**

ゴルフ業界を活性化させるにあたり、ゴルフ人口を増やさないといけないという議論がよく聞かれます。やはり、ビジネスを伸ばすためには、マーケットの拡大が必要なので、当然の着眼点です。

今回取り上げる「水泳」は、子供の頃から習い始める環境が非常に整っており、幼稚園や小学校の子供向けのスイミングスクールが

街中にはどこにでもありません。

子供の習い事ランキングは、様々な組織が調査をしています。どの調査でも第一位は水泳です。ちなみに、第二位以下は、ピアノ、英語・英会話、体操・リトミック、そろばん・くもん、習字などです。

サッカーや野球は、男の子のランキングの上位に出てくる調査もありますが、習い事ランキングで、ダントツのトップの位置を占めているのが水泳なのです。

体力作りの目的や、海や川での事故防止の観点、そして、オリンピックを頂点とする水泳選手を目指す競技志向など、様々なレベルで、子供の頃にスイミングスクールに通わせて水泳を学ばせる傾向が表れています。

水泳の場合は、学校の体育の時間で行われていることも、スイミングスクールの強さの背景にはあると思います。

このようなスイミングスクールの子供の習い事における確固たる地位の確保により、水泳人口は、毎年、増え続けているわけです。

スイミングスクールの中でも、優秀な水泳選手を輩出したたり、多店舗展開をしたりしている会社の中では、株式上場を達成する企業も出ています。筆者が所属していたベンチャーキャピタルで投資をした株式会社ジェイエスエスは、今年6月にジャスダック市場への上場を達成しました。

同社へのコンサルティングでは、体育会的な体質で、効率的な経営管理ができていないことが、成長を阻害していたため、近代的な経営管理手法を取り入れて、成長を加速させました。

**子供の習い事から
大人のフィットネスへの
流れ**

子供の頃にスイミングスクールへ通ったことで、大人になっても、フィットネスクラブで水泳をする消費者層が形成されています。フィットネスクラブ業界では、ティップネスやNAS、コナミスポーツ、セントラルなど、大手企業が多数存在しますが、それらの企業の好業績は、子供の頃の習い事としてのスイミングスクールの存在に支えられる面があると言え

ます。

もし、子供の頃に、スイミングスクールに習い事で通った経験がなかったら、大人になってから、フィットネスクラブに月々会費を払ってプールで泳ごうとする人は、これほど多くはないのではないのでしょうか。

子供の頃にそのスポーツを始められる環境にあるかどうか、マーケット規模を拡大するポイントがあります。そのことをゴルフ業界はもっと意識する必要があります。

■ ゴルフ業界への提言!!

子供の頃からゴルフを始められるようにする施策を考えよう!

各地のアマチュアのゴルフ協会が子供向けのゴルフ教室や大会を開催して、若年層のゴルファーの掘り起こしをしようという取り組みはありますが、街中に、スイミングスクールのように、子供向けのゴルフスクールがあるという状況にはありません。

現実的に考えれば、広範な消費者層からの需要があるスイミングスクールと同じように、子供向けのゴルフスクールが出来るということはないでしょう。その理由は、ゴルフはプレー代も用品代も高く、また、日本では、ゴルフ場が身近にないからです。しかし、ゴルフ業界を活性化させ、母集団としてのマーケット規模を拡大させていこうとするには、なにかしら、子供の頃からゴルフを始める人を増やしていく施策が必要です。

プロゴルファーの輩出率が高い九州では、子供がゴルフを習いやすい環境にあると聞きます。やはり、環境を整えれば、プロ選手にならなくとも、ゴルフをする習慣を持つゴルフ人口を増やしていけると考えられます。

この点について筆者は、どのような打ち手を打てるのが今すぐ思い浮かびませんが、ゴルフ業界全体で、自分たちが持っている資金やネットワーク、ノウハウ、設備などから何が出来るかを考え出し、それを出来る限り実行していくということが大切だと思います。日本においても、ゴルフを子供の頃から始められる環境整備のための施策のアイデア出しをゴルフ業界の各企業で行ってみるとか、アイデアを募集するとか、何かしてみるとよいのではないのでしょうか。

でしょう。

水泳以外のスポーツで見ても、サッカーや野球は、子供の頃に習う人は多いですが、大人になつたら、やらなくなってしまう傾向があります。それに対して、ゴルフは、子供の頃から始める人が少なく、大人になって始める人に依存してしまっています。

**ゴルフを子供の頃に
始める環境を
作ることはできるか**

石川遼選手の活躍で、子供にゴ

ルフを習わせようという流れは日本でも出てきました。私立の中学校、高校の中では、ゴルフ部を設けて、選手育成に力を入れている学校もあります。

しかし、日本で育つた方で、子供の頃からゴルフをしていた方は、親や祖父などがゴルフ好きで、一緒に連れて行つてもらっていた…… という人のみで、相当、少数派ですね。

そのあたりに、ゴルフ人口を増やしていくにあつたときのネックがあると思います。